

陽だまり

24

Vol.

2018.4



公益財団法人

丹後中央病院

広報誌

〒627-8555

京都府京丹後市峰山町杉谷158-1

TEL 0772(62)0791

<http://www.tangohp.com>

陽だまりvol. 24

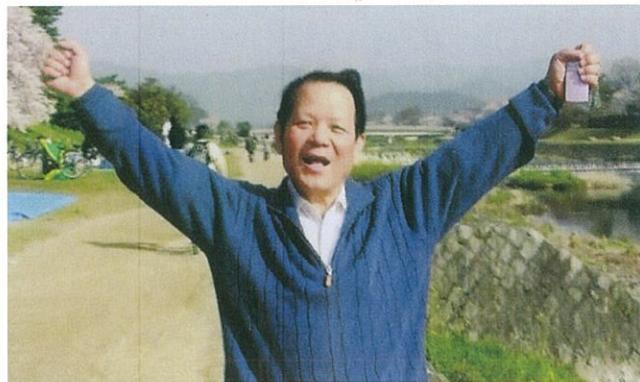
CONTENTS

ごあいさつ	
病院長 西島 直城	2
新任医師のごあいさつ	4
服薬指導の取組み (薬剤部)	6
栄養指導の取組み (栄養部)	7
研修医感想	8
中学生職場体験	12
展示	14

◆ 今号の表紙◆



病院駐車場南側の桜。
(強剪定前の写真)



京都の鴨川の桜が咲いた。

昔、家庭教師していた時、恋愛がありました。
もう2度と恋はしないと誓いました。

ぼくの初恋

～忘れな草をあなたに～

病院長 西 島 直 城

ぼくの親は共働きであったため、奨学金を受け取る基準を満たせなかった。しかし、大学に在学中、両親がともに入院し、「家計の急変にも対応してほしい」と教務課に怒鳴り込んだ。すると8000人から2人だけ選ばれ特別奨学金を受け取る運びとなった。大変うれしく思ったことを記憶している。それでも貧しく、アルバイトに明け暮れた。家庭教師を14人受け持ち、1日に2人担当することが当たり前であった。

大学の2、3年生ごろであったと思う。生徒の一人に京都女子大志望の学生がいた。どこか惹かれるものがあった。自分の気持ちに気づいてから半年くらい我慢したが、ついにある日その女学生の母親に「暇をいただきたい」と伝えた。母親はとても驚き、理由を求めたが「私が悪いんです・・・好きになってしまった」とだけ伝えた。

その後、その娘の母親から電話がいく度もかかってきた。



綾部の畑にダイコンを獲りに行きました。

「これが初恋なのだ。そんなものだ」と言いたかった。その女子高生に、とある駅でばったり再会したとき、こちらの顔を見るなり一目散に逃げていった。母親が伝えたのだろう。その年の12月は特につらく、郷里の山口で年末年始を過ごした。

当時合ハイ、合コンの誘いは多くあったが、休日をほとんどアルバイトに当てていた。映画のエキストラ等に明け暮れた。

しばらく、暮れになると「いつ一までも　いつまでも　覚えておいて　欲しいから♪♪」と口ずさんでいました。

玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば
忍ぶることの弱りもぞする



三千院に行ってみると、
モミジが若葉になっていました。



ダイコンがこんな花になっていました。

新任医師のご紹介

一般内科

井上 輝郎 副院長

本年4月1日付けで着任いたしました、内科の井上輝郎です。

昭和63年滋賀医科大学卒業後、第一内科（現在の呼吸循環器内科）に入局しました。前半の約20年は心血管インター
ベンション治療、ペースメーカー植え込み術などを専門に救急医療を行なってまいりました。後半の10年余りは地方の公立、私立の病院に赴任しながら、北は北海道利尻島、南は九州熊本阿蘇と地域医療に携わってまいりました。

そこで学んだことは、先ず、人口の減少と高齢化、次に疾病構造の地域性。例えば、熊本阿蘇は甘辛い味付けで、糖尿病が非常に多く、糖尿病性腎症も多いこと。北海道利尻島は、漁師町で農業がなく、野菜の代わりに昆布を食すため、甲状腺疾患が多発していたこと。宮城県石巻では、高塩食による高血圧が多いため、脳卒中が多い等々。また、赴任先は救急病院でありながら、運ばれてくる患者さんは、ほとんどが高齢者で、脳卒中、急性心筋梗塞、誤嚥性肺炎など、生活習慣病や加齢による脳神経機能低下によるものであるため、予後は慢性期医療に移行していくものでした。

そうした医療に係わる中で私は循環器内科、総合内科に東洋医学を加味しながら、漢方処方を積極的に取り入れてまいりました。患者さんの不定愁訴に傾聴し、東洋医学で言う『証』に基づく漢方処方を行うことで、全身的な訴えが改善していく経験を数多く得ることができました。また、循環器内科の立場から、人工透析医療にも関わることができ、これらの経験と知識を基に丹後中央病院の内科診療の一角を与かることができれば、幸甚に存じます。

今後とも皆様のご教示、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



外 科

田中 宏和 外科部長

平成30年4月1日より、丹後中央病院に戻ってまいりました、外科の田中宏和です。平成27年5月より2年あまり、ドイツのノルトライン＝ヴェストファーレン州にあります、Uniklinik RWTH Aachen 大学病院に留学させていただき、肝臓外科および移植医療を研究してまいりました。留学の際には突然の話で患者様にご迷惑をおかけしましたが、こうして再び丹後の医療のお手伝いが出来ることを心より嬉しく思っております。

留学中、日本人以外の方々と接する事で、学問だけでなく、日本の文化とは異なる様々な考え方や価値観を学びました。中でも、あらゆる職種の方が、自身が属するコミュニティを深く敬愛し、誇りを持って仕事をしていらっしゃる姿に、強い感銘を受けました。

私もこの丹後の地が大好きです。皆様が安心して暮らしていく様、精一杯努めさせていただきます。具体的には、ご高齢でもお元気な方が多いこの地域で、年齢を理由に治療を諦める事はせず、一日でもお元気でいられるような外科治療を提供させていただきたいと思っております。そのためには、腹腔鏡を用いる等の工夫で低侵襲の手術を徹底すること、そして何よりも疾患を早期発見し、早期に治療を開始することが重要となります。

消化器内科をはじめ諸科の先生方と連携しつつ、様々な疾病に対する最新の治療法を、より身近に感じていただけるよう、情報発信をさせていただきます。地域の皆様には今後ともご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



服薬指導の取組み



薬剤師は医師の処方せんを基に調剤をしますが、患者様に薬を渡す時には安心安全に薬を飲めるように服薬指導も行います。薬の作用や飲む時の注意だけでなく、副作用の可能性もきちんと伝えることにより、何か変わった症状が起きた時に早く気付いていただけます。(当院は外来では特に必要な場合に行ってています)

一方的に指導するのではなく、患者様の話を聞くことも服薬指導です。患者様の症状やアレルギー歴、他に飲んでいる薬があるか、などの情報も大切です。

薬を飲む時は患者様が不安になりがちなので、薬剤師はその専門的な知識を活かし、その不安を解消し、治療に前向きに取り組んでもらえるよう、患者様の気持ちに寄り添った指導を行っています。

また、服薬指導は調剤薬局やドラッグストアでも行われています。薬剤師は患者様の話からより効果的と考えられる薬を選択して、効果や使用の仕方などを説明します。

病院薬剤師は病棟での服薬指導業務が中心で、当院では毎月250件程度行っています。

薬剤師が患者様のベットサイドに赴き、服薬状況の確認や患者様からの質問などに答えます。病院では、効果は高いが副作用に注意が必要な薬とか使い方が難しい薬が多いので、より高度な服薬指導のスキルが必要になります。



糖尿病の薬などは血糖の管理が難しく、慎重に使用しなければいけません。また吸入薬についても正しい吸入方法で使用できていなければ意味がありません。抗癌剤や医療用麻薬なども事前にどのような副作用がおきる可能性があるのか知っておくことで患者様は安心できます。

病院の薬剤師は医師や看護師とともに、患者様が安心して治療に取り組めるようにサポートをしています



栄養指導の取組み



栄養指導の取り組みとしては、個別指導と集団指導があります。

個別指導では、患者様の生活環境に合わせた食事療養のアドバイスをさせて頂いています。

入院・外来において対象疾患（糖尿病・肝臓病・脂質異常症・腎臓病・心臓疾患・消化器手術後・鉄欠乏性貧血・摂食/嚥下障害等）の患者様及びご家族様に対し、主に食塩、糖質、脂質、たんぱく質コントロールに関して指導を行っていますが、最近では飲み込みが上手くいかなくなつた方への食事形態の工夫なども指導しています。

指導にあたっては以下のことに気を付けています。

- 無理なく継続ができ、効果が上がるような指導。
- 料理が苦手・出来ない方には外食・惣菜の摂り方を具体的に指導。
- 食品の選び方、量、形態、調理方法、保存方法などの指導。
- 情報提供として「低カロリー食品」「低たんぱく質食品」「栄養補助食品」などの紹介。
- 患者様の話を伺いながらその方に合った食生活の改善法と一緒に考える。

集団指導では、糖尿病教室として毎回異なるテーマで管理栄養士による、糖尿病の治療や療養について役立つ教室を開催しています。

予約制となっておりますので、参加を希望される方は外来・病棟の看護師までお声かけ下さい。

平成29年度糖尿病教室

5月「時間栄養学のすすめ」	16名
7月「飲み物の選び方」	15名
9月「睡眠と生活習慣病」	10名
11月「糖尿病と口腔ケア」	10名

平成30年4月から、隔月で「腎臓病教室」も開催いたします。

近年、腎臓の機能が悪くなっている患者さんは多く、慢性腎不全は進行すると人工透析が必要となってくる病気です。現代の医学では、悪くなった腎臓を元に戻すことはできません。

大切な腎臓を守るために、腎臓に対する正しい知識を身につけ、腎臓病の進行を予防する事を目的に開催いたします。

個別指導 昨年度の実績

外来 489件

おもな指導内容

透析食・糖尿病食など

入院 471件

おもな指導内容

糖尿病食・減塩食・術後食など



開催曜日・場所

糖尿病教室 隔月 第4火曜日 14:00~15:00 ふたばホール

腎臓病教室 隔月 第1木曜日 14:00~15:00 ふたばホール

詳しくは、病院内掲示または病院ホームページをご確認ください。

研修医感想



地域医療研修を終えて

京都大学医学部附属病院
2年次研修医 宮本 将太

今回、地域医療研修において学んだこと、および研修の概要について報告致します。私は2017年10月上旬から11月上旬にかけての約一か月間、丹後中央病院の整形外科において研修させていただきました。丹後中央病院は昭和17年に開設された病院で、京丹後市峰山町に所在し、総病床数は現在306床（一般が210床、回りハが96床）の病院で、北丹の中核医療施設を担っています。今回研修先の整形外科は、高齢化の影響や、地域の特性としてリウマチ患者が多いことからも、特に患者数は丹後中央病院でも多い科でした。なかでも、外来は夜間にも夜診という形で行うなど、京大病院ではないシステムで行ったりしていました。研修の内容としては、基本的には午前中は外来研修、午後は手術研修、合間に病棟管理や夜診研修といった形式で行っていました。

まず外来研修は、西島院長および野口先生の外来で行いました。初診の患者については予診を担当しました。予診の内容としては、具体的には、現病歴・既往歴・主訴・患者の外来受診目的を明らかにし、その場で自身の判断でやるべき検査をオーダーします。その後上級医が予診の終わった患者を外来室に呼び診察が始まります。その外来を通して、さっき自分で診察した患者の今後の方針やさらに追加すべき検査についてを目の当たりにして、自身の知識不足や問診で至らなかった点について学ぶことができました。手技としては慢性関節痛患者に対する関節内注射や、骨折患者のギブス装着およびギブスカット等を行いました。ギブスカットはなかなか研修中に行う機会がなく、手の振動の感触もいまだに覚えているほど貴重に感じました。外来受診患者の画像判断について迷うものがあれば、読影について専門の先生から直接ご指導いただけたりして、大いに勉強にな

りました。先ほども少し触れましたが、地域の特性と、周囲に専門施設がなかなか無いことから、関節リウマチのフォローの方が多い印象でしたが、それ以外にも脊椎疾患や交通外傷、骨折、脱臼、ばね指、指切断、デュピュイトラン拘縮などよく見る疾患（いわゆるcommon disease）から珍しい疾患まで多岐にわたり触れることができ、大変刺激を受けました。外来の合間の西島院長や竹村看護師長との医療分野にとどまらない雑談もとても楽しく、学ばせていただくことも多かったです。

午後には手術研修がありました。院長先生、野口先生、南先生にはもちろんのこと、他病院から手術施行のためにいらっしゃる杉本先生、西川先生そして安藤先生にも大変にお世話になりました。また、オペ看護師の方々にも非常に助けていただきました。特に野口先生には大腿骨頸部骨折に対するインターナンの挿入手技についてマンツーマンでご指導いただいたり、なかなか縫合が上達しない私に対して縫合の基本および考え方についてご助言いただいたり、手術書や解剖書のみならず実際の診療で役立つ本を手術の予定に合わせて貸していただけたりして、本当に実りの多い研修を受けることができました。将来救急科志望の私のために、緊急での創外固定術の時に連絡くださったりと、貴重な体験も経験でき、感謝しています。

業務終了後の時間に、野口先生や外科の先生方のご厚意で飲みに連れていっていただけることも多かったです。この地域では、間人や舞鶴など有名な漁港でとれる魚介類やカニ（私は解禁日がまだでカニは食べれませんでしたが）、玉川をはじめとする地酒酒蔵が醸し出す日本酒、肉厚かつジューシーな味わいで有名な丹波黒どりなど、食に関しては枚挙にいとまがないほど多くの食材があり、近郊から直送の食材をふんだんに使った一品料理が自慢の居酒屋や、海鮮たっぷりのイタリアン、市内からも客が訪れる寿司屋など、病院の近くから少し離れたところにまで多くのおいしい店があり、いろんな意味でおいしい研修期間を送

ることができました。

また、研修地域およびその周辺には観光地としても有名な場所がいくつもありました。名所として日本三景に数えられる天橋立や鳴き砂で有名な琴引浜があり、京都市内にはない自然景観・絶景を楽しむことができました。また、日本でも有数の温泉地として知られる城崎温泉や湯村温泉、夕日が浦温泉などが車や電車ですぐに行ける場所にあり、特に城崎温泉は週末に訪れる日本人のみならず外国からの観光客でもにぎわいを見せていました。活気にあふれていました。このように休日にリフレッシュできる場所が周囲には散在しており、今度は勤務地としてのみならず旅行先としても改めて訪れたいと思えるような魅力のたくさん詰まった地域だったと思いました。

今回の地域実習では勉強・実習はもちろんのこと娯楽を含めて非常に充実した研修期間をおくることができました。これもひとえに丹後中央病院のスタッフの方々の温かいご支援・ご指導のおかげだと感じています。今後も丹後中央病院で学んだことをいかして医師としての研鑽を積んでいきたいと考えています。

最後に、特にお世話になった西島先生、野口先生に感謝の言葉を述べたいと思います。西島先生、院長として多忙なご身分の中、研修医である私のことを何かと気にかけてくださいありがとうございました。先生の早く的確な外来診察は患者との接し方や処置の方法についても多く学ぶことができました。本当に患者のことを考えるのならば、病気のみならず医療保険をはじめとする公衆衛生についてもしっかりと考えなければならないことも先生の行動を通して学べました。今度は研修としてではなく勤務先としてお世話になることもあるかもしれません、その時はよろしくお願ひいたします。野口先生、外来・病棟・手術とお世話になりました。手術において縫合がなかなか上達しない私に対して縫合の基本的な考え方や方法を細かに教えてくださったり、外来や病棟管理で私が疑問に思ったことの質問に対して丁寧なフィードバックを行ってくださいり、まるでマンツーマンの個人指導をうけているかのような気分になれました。また別の機会にお会いすることができるかもしれません、もっと手技が上達した状態で会えるように日々研鑽を積みたいと思います。

ありがとうございました。

丹後中央病院での地域研修を通して

京都大学医学附属病院
2年次研修医 上田 容子

大学病院での地域研修の一環として5週間、丹後中央病院の外科で研修をさせていただきました。私は将来外科に進もうと考えているため、地域医療を担っている病院でどのような手術をされているのか、またどのような疾患で入院されている方が多いのか大変興味がありました。様々な外科疾患に触れることができればと思い、外科を選択しました。

地域研修では朝8時から呼吸器内科 佐竹先生による胸部レントゲン読影の講義、その後病棟回診・包交などを行い、手術に入るというのが1日の大きな流れでした。

佐竹先生の講義は基本的な内容からしっかりと指導していただきました。胸部レントゲンは今まで何度も読んでいましたが、なんとなく影があるなど判断したら、すぐにCTを撮影していたので、実はじっくりと所見をつけていなかったなどこの講義を通して感じました。佐竹先生にはシステムティックにレントゲンを読んでいく力をつけて頂きました。マンツーマンの指導を通して、自分が分かっていない点・勉強不足なことが明確になりました。目から鱗が落ちるような講義をしていただき、大変勉強になりました。

手術は虫垂炎・ヘルニア・痔核などcommon diseaseから大腸癌などの消化器悪性腫瘍まで幅広く経験させていただきました。腹腔鏡を用いた手術が中心で、患者のニーズに合わせて術式を選択していました。緊急手術では自家麻酔による手術が必要なこともあります、限られた資源と医療スタッフで手術を行う難しさも学びました。

また、京丹後市は高齢化率35%と全国平均を上回っており、80~90歳台の高齢者を手術することが多々ありました。可能な限り低侵襲に、出血量を少なく、短時間で手術を終わらせる。高齢者は全身麻酔に耐えうる体力が必要で、また術後も絶食や長期臥床によりADLや体力が低下しないために早期のリハビリ介入を行うことが必要です。大学病院では80歳以上の患者を診る機会は少なく、周術期管理を含め大変貴重な経験をさせていただきました。

5週間という短い期間でしたが、13件の予定手術と8件の緊急手術に入らせていただきました。ただ見学するだけでなく、積極的に手を動かし、先生方のご指導の下、前立ちや術者も経験させていただきました。手術器具の使い方や縫合など基本的なことからどうやって視野を展開していくべきよいかといったことまで丁寧に教えていただきました。

初めて行く病院、初めて経験する手書きのカルテ、日々の業務に慣れることから始まった研修でしたが、周囲のスタッフの方々に優しく声をかけていただき、充実した研修生活を送ることができました。

研修が始まる前は、地域医療と聞くと慢性期疾患が多く、手術が必要な急性期疾患はあまり診ていないイメージがありました。しかし、実際には緊急手術も多く、急性期疾患も積極的に受け入れ、治療を行っていました。地域の病院ではあまり手術をしない、またできないという考えは間違っているなと思いました。

緊急手術のときは、病棟・手術室と連携を取り、検査などの術前準備を進めていました。どんな時でも迅速に対応して下さる医療スタッフの方々がいらっしゃるからできることだと思います。日々、多職種とコミュニケーションを取ることも大切であると今回の研修を通して感じました。

最後になりましたが、5週間という短い期間でしたが、研修を受け入れて下さった西島先生、朝の忙しい時間を割いて熱心にレントゲンの読影講義をして下さった佐竹先生、指導して下さった藤田先生をはじめ外科の先生方、病棟・手術室のスタッフの皆様、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

丹後中央病院での実習を終えて

京都大学医学部附属病院
2年次研修医 菊谷 明広

地域研修として、丹後中央病院消化器内科で7月の4週間を過ごさせて頂きました。まず初めの印象としては病院が思っていたより大きく、また綺麗で清潔感がある病院でした。研修内容としては、消化器内科濱田先生と一緒に行動し、主に内視鏡、外来、病棟を見させて頂きました。

最初に内視鏡に関しては人間ドックのスクリー

ニングから消化管出血の重症患者に対する止血術、ERCP、また他の検査では診断に至らず超音波内視鏡下穿刺吸引法、胃癌・大腸癌に対する切除術等をされており、都会の大病院と変わらないレベルの医療がなされており、またそれを1人でこなされていることに驚きました。次に外来に関してですが、1日に60人以上の患者を診察されていました。初診の患者さんに対する検査も瞬時に決定され、重症度・必要度に応じた時間配分をされており、限られた時間の中で全ての患者さんに丁度良い外来をされているように感じました。また京大病院ではほどんど採用されていないクラークさんの素早い仕事ぶりにも圧倒されました。最後に病棟に関してですが、入院患者が20名程度常にいました。朝と外来・内視鏡後に回診されて、全ての患者さんの状態を把握されており、指示を的確に出されている姿をみさせて頂きました。病棟では看護師さんの役割も多く、大学病院では研修医がしているような仕事に近い、場合によってはそれを超える働きをされていることにも驚きました。

最後になりましたがお忙しいなか研修を受け入れてくださった消化器内科の濱田先生、スタッフの方々に感謝申し上げます。4週間ありがとうございました。

丹後中央病院 消化器内科における実習を終えて

京都大学医学部
医学科5回生 松田 稔

地域研修として丹後中央病院の消化器内科にて実習させて頂き大変お世話になりました。2週間と大変短い期間ではありましたが、非常に充実した内容であったと思います。

今まで大学病院を始めとした高度先進医療を提供しておられる機関を中心に実習させて頂くことが多かったのですが今回は地域の基幹施設として地域に根付いた医療を提供しておられる丹後中央病院で実習を行い、新たに多くの学びや発見があり非常に有意義な時間を過ごすことができたと思います。

実習の内容に関しては上部内視鏡、下部内視鏡、ERCPの他、外来見学や1週間に1人当たる入院患者様についての症例の理解といったものになり

ました。内視鏡見学では正常所見と異常所見の違い、萎縮性胃炎や早期胃癌、大腸癌の像、種々のポリープの鑑別といったものについて理解することができました。また、ESD等の内視鏡を用いた治療についても実際に見学させて頂き手技がよりイメージがしやすいものになりました。ERCPについては、どういった時に必要になる検査なのか、どういった疾患を鑑別に挙げるのかといったことを勉強させて頂きました。毎週水曜日は外来にも陪席させて頂きました。濱田先生は1日に100人近くにも上る患者様を診察しておられ、その中には先生の専門分野である消化器内科以外の内科的疾患が背景にある患者様も多数おられ、幅広い総合的な医学知識を持つことの重要性を痛感しました。将来自分がどの診療科を専攻するにせよ自分の専門範囲のみならず総合医療について十分に精通し、幅広いジェネラルな考え方を十分に身に着けることの必要性を感じました。また、胸痛、腹痛、嘔気といった消化器系疾患に限らず比較的目にすることが多い主訴を見た場合、どういった疾患のルールアウトが必要か、鑑別をどう考えれば良いか、どのようなオーダーを入れるべきかといった考え方を教わり非常に有意義でした。また、自分の担当症例については背景にある疾患について詳しく調べることでより臨床に即した形で理解を深めることができました。

学習面以外でも学ぶことは多々ありました。常勤一人で内視鏡、病棟、外来といった多くの業務をこなす厳しい状況であっても看護師さんやクラークさんを初めとした医療スタッフの方々と良好な関係を築き互いに密接にサポートしあうことで日々の診療を円滑に進めておられ、チーム医療の重要性を再認識することができました。医療は多くの人々の支えによって初めて成り立つものであるということを実感しました。また、濱田先生自身のキャリア等についてお聞きすることで将来の自分の働き方を考え改めて良い機会にもなりました。

生活面でも、秘書課の方々にも実習がスムーズに行えるよう取り計らって頂き、更には宿舎や日々の食事の手配もあり、非常に快適な2週間を過ごすことができ大変感謝しております。

最後になりますが、消化器内科の濱田先生、内視鏡スタッフの方々、事務の方々の皆様に対してお礼申し上げたいと思います。丹後中央病院の職

員の皆様、非常に貴重な体験をさせて頂き誠にありがとうございました。

丹後中央病院での実習を終えて

京都大学医学部
医学科5回生 三木 智貴

ポリクリの一環として、丹後中央病院消化器内科にて2週間実習をさせていただきました。

実習内容としては、消化器内科でのただ一人の常勤医師である濱田先生のお仕事に付いて回る形式でした。水曜日の外来見学以外は基本的に一日中内視鏡室におり、GIF、CF、ERCP、EUSなどの検査から早期胃癌、早期大腸癌のESDなどの見学をしました。

内視鏡検査では、画面を通してどこに病変があるのか等具体的な所見を伝えてくださるだけでなく、専門的な教科書で後から補足で指導してください、理解が深まりました。

国家試験レベルを超えた内容まで勉強することが出来たと思っています。

外来見学では午前外来だけで50人以上の方が濱田先生の元に訪れるため、全て終わるのが2時～3時と大変お忙しい状況でした。うまく回すために看護師さん、クラークさん、事務員さんが協力して濱田先生を支えていると同時に仕事ぶりがテキパキとしていて濱田先生だけではなく、周りのコメディカルの方々も本当に優秀なのだと感じました。

内視鏡検査の見学と外来見学を通して感じたことは、患者への濱田先生の話し方伝え方です。濱田先生は患者さんが分かりやすいような言葉で説明されており、特に年寄りの方に対しては大きな声で優しくゆっくりとした口調で話しておられ大変参考になりました。また、消化器疾患だけではなく、胸痛や風邪など専門分野以外の疾患も多く診ておられ、地域医療ならではの現状を目の当たりにすることが出来ました。自分も将来、体全般を診れるような総合力の高い医師になれたらと強く思いました。

最後になりますが、2週間と短い間でしたが、濱田先生を始め多くのスタッフの方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。

中学生職場体験

大宮中学校2年生（10名）、峰山中学校2年生（10名）の職場体験がありました。2日間にわたり看護部、薬剤部、リハビリテーション部、臨床検査部、放射線部、医事部各部署で、大変熱心に見学されていました。

大宮中学校
2年生



峰山中学校
2年生





救急室を見学中、京丹後市の救急車が到着。
救急患者様を運び入れた後、救急隊のご厚意で
救急車の内部を見学させていただきました。



医事部にて、電子カルテを体験しました。



医事部にて、車椅子にて来院された患者様の
接遇を体験しました。



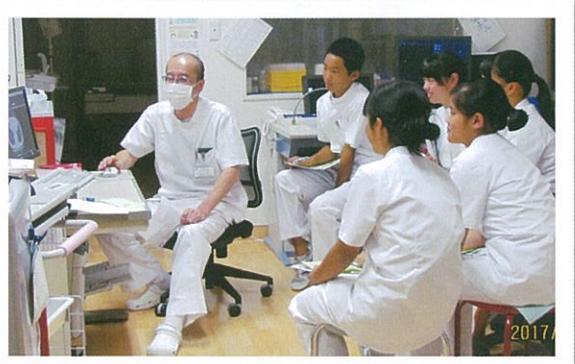
リハビリテーション部
にて、患者様とゲーム、
会話を体験しました。



薬剤部にて、
薬の保管管理
について体験
しました。



病棟にて、入院患者様が飲まれる薬の
チェックを体験しました。

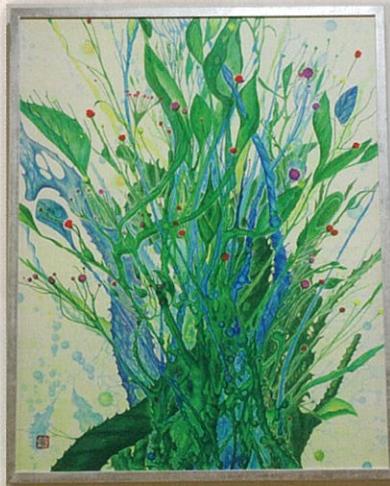


放射線部にて、画像診断装置を体験しました。



臨床検査部にて、各種検査機器を体験しました。

色エンピツ画 “ウォーターガーデン”



タペストリー “のぼり”



編 集 後 記

宮津の府中にて、冠島・沓島が浮いて見える蜃気楼を見ました。宮津湾では、温い海に冷たい風が吹きつけるとよく発生するとのことです。

神の島の冠島・沓島に相応しい光景に感動し、これは“おみくじ”でいえば「大吉」の上の「大大吉」と喜んだのですが、占いの世界ではそうでもないようです。

蜃気楼とは「蜃」という巨大なハマグリの化け物が息=「気」を吐いて見せる幻で、タロットでも蜃気楼(mirage)は物事の歪や気持ちの歪、錯覚や勘違いを意味するカードとのことです。「歪んだ心を正し、正確に物事をつかみなさい！」という神の戒めを見たようです。(広報課中田)